

第 104 回全国高等学校野球選手権沖縄大会

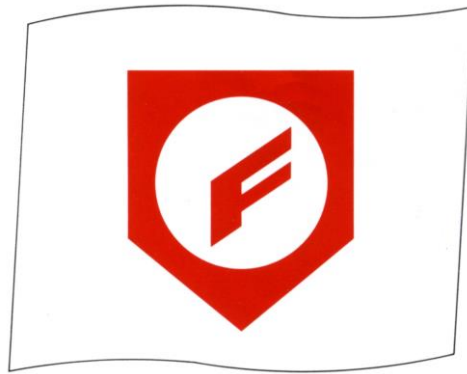
令和 4 年 6 月 18 日（土） ～ 7 月 17 日（日）

主 催 ： 一般財団法人
沖縄県高等学校野球連盟
： 朝 日 新 聞 社
後 援 ： 沖縄県教育委員会

会 場 ： 沖縄セルラースタジアム那覇
： コザしんきんスタジアム
： アトムホームスタジアム宜野湾
： タピックススタジアム名護

大会要項

2022 年 5 月 10 日



一般財団法人

沖縄県高等学校野球連盟

第 104 回全国高等学校野球選手権沖縄大会 大会要項

主 催 ・ 一般財団法人 沖縄県高等学校野球連盟
・ 朝日新聞社

後 援 ・ 沖縄県教育委員会

1. 期 日 令和4年6月18日(土) ～ 7月17日(日)雨天順延

2. 会 場 沖縄セルラースタジアム那覇 那覇市奥武山町4-2-1
コザしんきんスタジアム 沖縄市諸見里2-1-1
アトムホームスタジアム宜野湾 宜野湾市真志喜4-2-1
タピックスタジアム名護 名護市宮里2-1

3. 大会申し込み 本大会に参加を希望する加盟校は、沖縄県高野連 HP (<http://www.kouyaren-okinawa.jp/>) に掲載されている所定の選手資格証明書を15部(押印はコピーした後に行うこと。)作成し下記宛に提出して下さい。◎印なども忘れずに記入して下さい。なお、独自に作成した証明書を提出した場合は、再提出をお願いすることになりますのでご注意ください。
また、用紙サイズはB4サイズとなりますのでご注意ください。

提出先 〒901-2224 宜野湾市真志喜2-25-1 宜野湾高校内
沖縄県高等学校野球連盟 理事長 中村 健 宛

4. 申し込締切り 令和4年6月6日(月) 正午までに選手資格証明書を提出、以後は理由を問わず受け付けない。
※同期日までに、データ(Excel ファイル)を、高野連事務局の電子メールアドレスまで電子メールにて添付送信して下さい。

5. 抽 選 会 期日：令和4年6月7日(火)午後2時 リモートによる抽選会。
リモート配信会場：石川高校コンピュータ教室
①参加校は各学校からリモートで参加する。
②リモートでの参加が困難な学校は、原則として大会本部による代理抽選とするが、リモート配信会場の石川高校にて抽選を行うこともできる。事前に(5月31日(火)正午までに)大会本部に連絡する。
③リモートによる参加者は原則として責任教師、監督、キャプテンとするが、当該校の状況により各学校で判断する。
石川高校で抽選会に参加する場合は、正副責任教師または監督のいずれか一人。
※抽選会リハーサル：5月31日(火)15時30分

④抽選に当たってはシード制を採用する。(1.沖縄水産、2.沖縄尚学、3.前原、4.宮古)

6. 大会諸経費 ①入場整理券をもって充当する。大人600円・中高生200円
②剰余金が生じたときは、本連盟運営費に繰り入れ、不足の際は同運営費から充当。

7. 大会組織及び運営 ①参加校は日本高等学校野球連盟に加盟している学校代表チームによって行う。
②主催者で運営委員会を組織し、大会運営に万全を期す。
③大会役員は運営委員会で適任者を選び委嘱、審判委員は県高野連審判部が担当する。

8. 登録変更について 申し込み終了後の選手登録変更は、令和4年6月17日(金)正午までとする。
所定の様式1(登録選手変更届)で10部提出すること。その後の変更は認めない。
提出先：沖縄県高野連事務局。(郵送は、上記3.の宛先まで)
担 当：前川 等(副理事長)

9. 表彰及び派遣 ①優勝校へは賞状、優勝旗、優勝楯、メダルを授与する。
②準優勝校へは賞状、準優勝楯、メダルを授与する。
③本大会の優勝校を、8月6日(土)から17日間、阪神甲子園球場で開催される、第104回全国高等学校野球選手権大会に沖縄代表として派遣する。

10. 大会本部 ①県高野連事務局（宜野湾高校内） ☎ FAX 098-890-3158 大会前又は試合のないとき
②朝日新聞那覇総局 ☎ 098-867-1972 ・ FAX 098-863-8545

11. 開始式 令和4年6月18日（土） 午前8時15分 沖縄セルラースタジアム那覇
▼雨天時は、沖縄セルラーパークで行う。

6月18日（土）セルラースタジアム那覇、開始式から第1試合開始までの予定

7:50 オーダー提出

8:00 オーダー交換

8:15 開始式・育成功労賞表彰

8:40 シートノック

9:10 試合開始

※開始式参加の2チームは、ご理解とご協力をお願いします。

12. 閉会式 決勝戦終了後、優勝、準優勝の両校で行う。（**沖縄セルラースタジアム那覇**）

第 104 回全国高等学校野球選手権沖縄大会 細則

1. 試合規則は、2022年公認野球規則と大会特別規定により運営する。
2. 選手資格は、令和4年4月2日現在で満18才（平成16年＝2004年4月2日以降の出生者）以下の者。
3. 大会期間中の不測の負傷または疾病に対して、主催者は応急の手当を施す他は責任を負わない。
4. 第1試合の出場チームは、試合開始90分前には所定の球場に到着し、大会本部よりオーダー用紙を受け取り記入後、直ちに提出すること。その後放送により責任教師・主将は本部役員・審判委員の指示に従って攻守を決める。（オーダー用紙交換は試合開始50分前に行なう。）
5. 第2試合目以降の出場チームは、球場到着後、大会本部でオーダー用紙を受け取り、4回終了までに大会本部に提出すること。オーダー用紙交換は5回終了後に行なう（放送を行なう）。責任教師と主将は本部役員・審判委員の指示に従って攻守を決める。選手はいつでも試合ができるよう準備をしておくこと。
6. ベンチサイドは、抽選番号の若いチームを一塁側とする。
ベンチには登録の責任教師1名、副責任教師1名、監督1名、選手20名、記録員1名の計24名以内とする。
7. 責任教師か副責任教師がノックした後は、平服に着替えベンチに入ること（高野連スタッフシャツも可）。
8. 試合前のシートノックは7分間。ノック時の補助選手は5名までとし、必ずヘルメットを着用すること。又、登録メンバー以外は、ノックを受けたり守備に入ってはいけない。
9. シートノック時のノッカーは、選手と同じユニフォームを着用し、黒または白のスパイクおよびシューズとする。補助選手も試合用ユニフォームを着用すること。
10. 記録員は男女にかかわらず、自校の制服を着用すること。複数の記録員のいる場合は毎試合代わってもよい。
11. 打者・走者ともに危険防止のため、必ずSGマーク（経産省認可）両耳付きヘルメットを着用する。
12. 捕手は防護用ヘルメット（SGマーク付）とスロートガード（のど部分の防護具）、カップを必ず使用すること。また、練習時を含め、捕手は座って投球を受けるときは必ず捕手用具一式を着用すること。
13. 試合中、攻守交代は全力疾走に徹すること。
14. 攻撃側の選手は、次打者・ランナーコーチ以外はベンチから出ないこと。次打者席には、必ず次打者が入り、投手が投球姿勢に入ったら素振りを止める。危険防止のため、グラウンド内にいる全ての選手（特に次打者、ブルペンの選手）は投手が投手板に位置したならばブレイに注目すること。
15. ベンチ内のメガホンは1個のみとする（監督のみ使用）。
16. グラウンドに入ってアップを開始するときは、試合用のユニフォームを着用すること。人員は25名以内とする。
17. 危険防止のため、球場内におけるフリーバッティング、ハーフバッティングは禁止する。また、球場内においてのウォーミングアップ及びランニングで外野の芝生を使用する際は、アップシューズを使用すること。
18. 試合中、ベンチ前でのキャッチボールは2組（4人）まで並列とし、ゴロの捕球練習は認めない。
19. 野球用具の使用については、日本高等学校野球連盟の用具使用制限に適合したものを使用すること。
《応援団について》
 1. 大会期間中の応援団の行動は、責任教師がその責任を負う。
 2. 手指消毒の徹底やソーシャルディスタンスの確保など感染拡大防止に努めること。
 3. プラスバンドでの応援、声を出しての応援や指笛、管楽器の使用を禁止する。
太鼓については、洋太鼓・和太鼓いずれかを1個とする。各チームによる音源の使用は認めない。
 4. 応援団は、試合中は場内の整理と感染拡大防止、試合終了後はスタンドの清掃と消毒に協力する。
 5. 個人名や校名を記入したノボリ等、テープ・紙ふぶき等、タオル等を振り回しての応援は禁止する。
 6. 応援団の校章旗・横断幕等は指定場所に掲げること。

大会特別規定

1. シートノックは試合前、大会本部の指示に従い行うこと。制限時間は7分間とする。但し、時間の都合で、短縮または行わないこともある。シートノックの補助員5名以内と補助ノッカー(登録外)1名を認める。
2. 本大会はタイブレーク制度を採用する。タイブレークは13回、無死1塁・2塁からとし、打順は12回終了時の打順を引き継ぐものとする。(決勝戦もタイブレークを適用する)
3. 1週間500球以内の投球とする。
4. 本大会では、得点差によるコールドゲームを次のとおり定める。
 - ①5回以降10点以上、7回以降7点以上の得点差が生じた場合。
 - ②決勝戦では、コールドゲームを適用しない。
5. 降雨中断後、30分毎に判断し、グラウンド整備を行ない90分をめどに試合続行が可能な場合は再開し、不可能と判断した場合は、審判委員が当該試合の当日の試合の打ち切りを命じ、継続試合とする。継続試合の日程や球場については、主催者が決定する。
6. 最終試合の開始時刻は日没2時間30分以前とするが、当日の天候その他を考慮して主催者が決定する。また、日没15分前からは新しいイニングに入らない。日没、その他の事情で試合の続行が不可能になった場合は、審判委員が当該試合の当日の試合の打ち切りを命じ、継続試合とする。継続試合の日程や球場については、主催者が決定する。

※継続試合については決勝戦でも適応する。またその詳細は別途定める。
7. 試合中、攻撃側選手に不慮の事故などが起き、一時走者を代えないと試合の中断が長引くと審判委員が判断した時は、相手チームに事情を説明し臨時の代走者を許可することができる。この代走者は試合に出場している選手に限られ、チームに指名権はない。

・臨時代走はその代走者がアウトになるか、得点するか、またはイニングが終了するまで継続する。ただし、塁上にいる臨時代走者が次打者となるケースにおいては、その臨時代走者に代えて打撃を完了した直後の者を新たな臨時代走者とする。

 - (1) 打者が死球などで負傷した場合
投手を除いた選手のうち、打撃を完了した直後の者とする。
 - (2) 塁上の走者が負傷した場合
投手を除いた選手のうち、その時の打者を除く打撃を完了した直後の者とする。

(参考) 臨時代走者の記録上の取り扱いは、盗塁、得点、残塁などすべてもとの走者の記録として扱われる。
8. 審判委員の判定には、絶対に抗議することはできない。但し、ルール適用の過ちがおきた場合は申し出ることができる。疑義を申し出る場合は主将、伝令、または当該選手に限る。
9. 審判委員へのアピールは、必ず主将及びそのプレーの当事者が行なうこと。
10. 試合中トラブルが生じ、試合続行が不可能な場合は、トラブルを引き起こしたチームを敗者とし、没収試合とする。
11. 打者がバッターボックスに入る時や投手が審判委員からボールを受け取る際は、帽子を取って礼をする必要はない。
12. 試合中は、ベンチ入りできない者(登録選手以外の部員・OB・保護者等)をベンチや選手控え室に出入りさせたり、ベンチ周辺に近づけない。
13. 携帯電話はベンチに持ち込まない。
14. 走者やベースコーチ等が捕手のサインを見て、声やジェスチャーで打者にコースや球種を教える等の行為を禁止する。
15. サイズの大きい走者用手袋の使用とグラブの手首へのリストバンド装着は認めない。

第 104 回全国高等学校野球選手権沖縄大会 開催細則

1. 開 始 式

- 1 令和 4 年 6 月 18 日（土）午前 8 時 15 分、沖縄セルラースタジアム那覇
（雨天時は、沖縄セルラーパーク那覇で行う）
- 2 参加者は、6 月 18 日（土）当日、沖縄セルラースタジアム那覇の第 1 試合の 2 チームの登録選手、責任教師（正副）、監督、記録員とする。
- 3 選手は各チームのユニフォーム（帽子、アンダーシャツ、ストッキング等を含む）は規定のとおり同一に揃える。スパイクは黒または白のいずれでも良い。
- 4 選手の背番号は登録のとおりにする。
- 5 開始式参加選手はユニフォーム着用のうえ、8 時 10 分に投手板を中心にバックネットに向かって一列横隊に整列する。
- 6 大会役員、審判委員、来賓及び各学校の校長は、8 時 10 分にバックネット前に整列する。
責任教師（正副）、監督、記録員は、8 時 10 分にそれぞれのベンチ前に整列する。

開始式式次第 進 行 新 垣 健 一 （高 野 連 総 務 部 長）

- | | |
|-------------|--|
| 1 選 手 整 列 | 両チームの選手は投手板を中心にバックネットに向かって一列横隊に整列。 |
| 2 開 式 通 告 | |
| 3 大 会 長 挨 拶 | 大 会 長 川 畑 三 矢 （高 野 連 会 長） |
| 4 選 手 宣 誓 | ◎ <u>組合せ抽選会にて、選手宣誓を希望する学校の主将に決定する。</u>
（選手宣誓を希望する主将が複数のときは抽選を行う）
※主将が選手宣誓を希望する学校は、「選手宣誓立候補届」を選手資格
証明書に同封し、申し込み時に提出して下さい。
※希望者がいないときは、宣誓クジを引き当てた学校の主将が行う。 |
| 5 閉 式 通 告 | |

※開始式後に、令和 4 年度育成功労賞表彰の伝達表彰式を行います。

開始式参加の 2 チームは、表彰式まで整列したままでご協力をお願いします。

2. 閉 会 式（沖縄セルラースタジアム那覇）

- 1 決勝戦終了後、優勝チーム、準優勝チーム、大会役員、審判委員、来賓で行う。
- 2 決勝戦が終わり次第、両チームの選手は投手板を中心にバックネットに向かって一列横隊に整列する。
- 3 大会役員、審判委員、来賓及び両校の校長、責任教師(正副)、監督はバックネット前に整列する。

閉会式式次第 進 行 新 垣 健 一 （高 野 連 総 務 部 長）

- | | | |
|---------------|-------------------|---------------|
| 1 開 | 会 | |
| 2 成 績 発 表 | | |
| 3 表 彰 | 大 会 長 川 畑 三 矢 | (高 野 連 会 長) |
| 4 大 会 長 挨 拶 | 大 会 長 川 畑 三 矢 | (高 野 連 会 長) |
| 5 激 励 の こ と ば | 大 会 副 会 長 木 村 司 | (朝日新聞那覇総局長) |
| 6 国旗並びに大会旗降納 | | |
| 7 閉 会 宣 言 | 大 会 副 会 長 外 間 昌 繁 | (高 野 連 副 会 長) |

※ 閉会式後、優勝、準優勝チームはダイヤモンドを一周する。

第104回全国高等学校野球選手権沖縄大会 競技役員

顧問	問	知念 繁夫 新屋 太郎 宜野座 嗣郎 國吉 眞介 宮里 景眞 狩俣 幸夫 砂川 恵重 赤嶺 研雄 我如古 清 玉城 崇 志良堂 芳男 前新 健 神谷 孝 森田 邦弘 前新 出 上原 昇 平良 章次 岩崎 勝久 半嶺 満 (県教育委員会教育長) 木村 司 (朝日新聞社那覇総局長) 比嘉 洋 (毎日新聞那覇支局長)
参加校校長	与	城間 敏生 (県教育庁保健体育課長)
大会 長		川 畑 三 矢 (県高野連会長)
大会 副 会 長		新 城 英 人 (県高野連副会長) 屋 良 淳 (県高野連副会長) 外 間 昌 繁 (県高野連副会長) 木 村 司 (朝日新聞那覇総局長)
運 営 委 員 長		中 村 健 (県高野連理事長)
運 営 委 員 長 補		前 川 等 (県高野連副理事長)
運 営 副 委 員 長		町 原 尚 忠 (県高野連常任理事) 渡久地 政 国 (県高野連常任理事) 宮 里 淳 (県高野連常任理事) 上 原 健 吾 (県高野連常任理事) 名渡山 直 子 (県高野連常任理事)
運 営 委 員		
総 務 部 部 長		新垣 健一
総 務 部 副 部 長		瀬底 智樹、 國吉 大志、 岸本 拓馬
技 術 部 部 長		川上 琢也
技 術 部 副 部 長		田里 友哉、 米須 清祐、 川平 優次
審 判 部 部 長		多嘉山 太
審 判 部 副 部 長		西銘 健一、 島袋 俊哉、 上原 拓、
記録情報部部長		神里 大 一
記録情報部副部長		佐久原 大志、 仲里 裕太、 豊原 啓人

競技役員

	城間恒寿	中村敦			森本裕也	真玉橋長郎	照屋実理
	中本昌弥	安富大志			濱元良人	松元輝	町田宗毅
	上地愛美	高良耕平			上原正昭	山城和也	
	比嘉智二	當銘樹	伊良波泰		下地克弥	宮城隼人	
	屋良健	新垣祐樹	知念邦睦		玉城史仁		
	津山嘉都真	玉城幸哉			大城英健	比嘉公也	伊志嶺大吾
	宮里義浩	宮城岳幸			安座間竜作	喜瀬民男	崎浜秀弥
	森澤征一郎	上原達也	比嘉吉一		吉元嘉邦	大川基樹	糸数辰信
	東佳奈子	玉城輝明	池宮城朗		伊佐優歩	親川聖	
	石澤里奈	津留直樹			金武孝代		
	前濱範一	東亮	山城明男		洲鎌弘樹	大城康成	仲川和充
	長嶺由騎	安富祖柚紀			仲里武史	照屋主二郎	石塚年勝
	仲宗根寛史	仲與根清十郎			嘉数節	知念盛人	岸本亘史
	具志堅興律	慶田城剛	狩俣和也		天願恒	照屋拓己	新里聡江
	大浦陸	島袋春樹	兼城翔太		宮城薫	親泊達也	崎原秀弥
	末吉昇一	喜舎場正太	伊禮直浩		翁長淳	瀬名波幹智	
	西野僚真	宜志富薫	與那城吾朗		森根太	古城大地	
	宮里健二	知名淳			神里正太	上原忠	大城一基
	知念正仁	田原伸繁	玉元大輔		川満翔太	呉屋大輔	
	浦添広志	奥田誠吾	城間克也		眞玉橋元博	山城元子	新垣隆夫
	藏本哲雄				当山祐作	大城浩二	山内一尚
	與儀正	天願正宗			宮里友也	平良隆訓	糸数昌之
	川満亨	新里拓			大城盛隆	大城貴史	
	比嘉秀策	嶺井政彦	當銘葵		平良栄二	栗國優貴子	屋嘉比政司
	伊禮隼	大蔵宗元	上原健史		島袋義之	新川将太	小波津尚志
	福中直人	宮城耕治	山城学		伊集幹郎	赤堂秀馬	
	新垣隆	比嘉繁遵			町田尚弥	兼島兼哲	伊良波長之
	仲里健	金城聡			上原八重子	新里和久	内間忍
	大嶺真	城間直美	阿波連仁		西銘大悟	砂川玄隆	大浜英康
	仲間広美	野原潤一			小林大隼	辻建	崎山留美
	安里利光	我喜屋優	砂川太		又吉晋也		
	池間忠彦	島袋洋奨			大城康弘	金城洋樹	
	藤井智	安慶名祐架	津留侑介		前城大悟	神山剛史	瀬名波敦
	金城幸伸	砂川歩	徳山篤史		浅利賢宏	五十嵐康朗	今崎颯
	山鹿勝廣	新田伸			神田大輝	神谷喜宗	大湾達矢
	我謝隆						
	富川盛章	安里大作	岸本敬	外間一先	仲本賢一郎	仲松志朗	福原修
	金城朋奈	中山慎	多和田真	伊計千夏	森みさき		

第 104 回全国高等学校野球選手権沖縄大会

審判委員

審判委員長	多嘉山 太	(県高野連審判部部長)		
審判副委員長	西銘 健一	(県高野連審判部副部長)		
	島袋 俊哉	(県高野連審判部副部長)		
	上原 拓	(県高野連審判部副部長)		
審判幹事	平良 章次	島袋 恭一	国仲 吉川	町田 幸男
	譜久村 淳一	安富 薫	比嘉 安孝	玉代勢 秀人
	座喜味 治	国仲 直彦	玉城 健	
審判委員	沖縄県高等学校野球連盟 審判部			

多嘉山 太	西 銘 健 一	島 袋 俊 哉	上 原 拓
平 良 章 次	島 袋 恭 一	国 仲 吉 川	町 田 幸 男
譜久村 淳 一	安 富 薫	比 嘉 安 孝	玉代勢 秀 人
座喜味 治	国 仲 直 彦	玉 城 健	喜 納 清 一
西 村 洋	真 壁 朝 善	喜友名 功	宮 里 一
我喜屋 宗 彦	澤 岷 安 邦	兼 次 博	上 原 浩
嘉 数 正 重	島 袋 英 治	玉 城 誠	大 城 幸 光
仲 本 盛 和	金 城 明 広	下 里 大 弥	大 浜 拓 郎
平 田 英 樹	平 良 朋 成	山 田 健 登	西 野 僚 真
野 原 大 輝	西 江 大 成	具 志 堅 興	嘉 陽 宗 雄
天 願 恒	平 良 博 志	野 原 潤 一	嶺 井 政 彦
中 村 健	外 間 一 先	田 原 伸 繁	津 留 直 樹
親 川 聖	平 良 隆 訓	眞玉橋 元 博	嘉 数 節
前 川 等	伊良波 泰	吉 元 嘉 邦	新 田 伸 男
知 名 淳	島 袋 春 樹	宮 里 淳	山 城 明 達
大 川 基 樹	照 屋 圭 二 郎	上 間 理 博	金 城 田 也
喜 瀬 民 男	照 屋 拓 己	外 間 宗 毅	奥 田 吾 勝
浦 添 広 志	川 満 宗 元	町 田 城 亮	石 塚 長 郎
知 念 正 仁	大 蔵 康 成	金 城 幸 哉	真玉橋 袋 善
安座間 竜 作	大 城 盛 隆	玉 城 良 人	島 袋 篤 史
田 里 友 哉	大 城 和 弘	濱 元 浩 二	長 山 良 榮
川 上 大 志	大 城 康 弘	大 城 政 国	平 富 大 健
國 吉 岳 幸	大 津 山 里 健	渡 久 地 貞 俊	安 上 原 真 澄
宮 神 里 大 樹	高 良 耕 修	山 豊 本 賢 一 郎	仲 里 大 作
洲 鎌 祐 介	伊 藝 銘 拓	金 城 裕 介	安 佐 久 大 志
大 嶺 城 朗	當 岸 本 秀	大 城 元 輝	安 富 勇 人
大 嶺 平 優	赤 堂		宮 里 友 人
村 田 直 樹			

令和4年 月 日

一般財団法人 沖縄県高等学校野球連盟

会 長 川 畑 三 矢 殿

高等学校

校 長

印

V T R ・ 写真撮影等撮影許可願い

標記の件、本校の（ 資料保存用 ・ アルバム用 ）に、下記要領にて撮影いたしたく許可
下さいますようお願い致します。

なお、上記目的以外に映像を有償頒布したり、主催者に無断で他の目的には使用致しませ
ん。

記

1. 大 会 名 第 104 回全国高等学校野球選手権沖縄大会
2. 撮 影 期 日 令和4年 月 日（ ） ～ 月 日（ ）
3. 撮 影 項 目 V T R 撮 影 ・ スチール（写真）撮影
4. 撮影委託業者
 - ・ 業 者 名
 - ・ 代 表 者 名
 - ・ 撮 影 者 氏 名
 - ・ 連 絡 先 ・ 会 社 :
 - ・ 携 帯 :